



平成29年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月14日

上場取引所 東 福

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社
コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 江里口俊文

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長

(氏名) 寺田尚文

TEL 0968-66-2111

定時株主総会開催予定日 平成30年3月29日

配当支払開始予定日

平成30年3月30日

有価証券報告書提出予定日 平成30年3月29日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期の連結業績(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期	7,664	8.5	444	72.9	422	83.2	267	88.1
28年12月期	7,061	△11.1	257	△48.4	230	△50.9	142	△49.3

(注) 包括利益 29年12月期 296百万円 (126.3%) 28年12月期 130百万円 (△58.6%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
29年12月期	25.91	—	2.5	1.9	5.8
28年12月期	13.77	—	1.3	1.1	3.7

(参考) 持分法投資損益 29年12月期 一百万円 28年12月期 一百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年12月期	21,797	10,903	50.0	1,054.76
28年12月期	21,738	10,710	49.3	1,036.12

(参考) 自己資本 29年12月期 10,903百万円 28年12月期 10,710百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
29年12月期	857	△397	△458	289
28年12月期	383	△445	67	288

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
28年12月期	—	3.00	—	5.00	8.00	82	58.1	0.8
29年12月期	—	5.00	—	6.00	11.00	113	42.4	1.1
30年12月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00		36.9	

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,900	3.1	460	3.4	430	1.8	280	4.5	27.09

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

29年12月期	10,346,683 株	28年12月期	10,346,683 株
29年12月期	9,253 株	28年12月期	9,253 株
29年12月期	10,337,430 株	28年12月期	10,337,430 株

(参考)個別業績の概要

平成29年12月期の個別業績(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期	4,674	11.7	302	133.3	323	117.6	217	128.5
28年12月期	4,184	△15.3	129	△49.0	148	△39.0	95	△22.1

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期	21.08	—
28年12月期	9.23	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年12月期	19,955	11,591	58.1	1,121.31
28年12月期	20,320	11,448	56.3	1,107.50

(参考) 自己資本 29年12月期 11,591百万円 28年12月期 11,448百万円

※ 決算短信は監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想ご利用に当たっての注意事項については、[添付資料]5ページ「(1). 経営成績に関する分析 2)次期の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	7
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	7
2. 企業集団の状況	8
3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	10
4. 連結財務諸表及び主な注記	11
(1) 連結貸借対照表	11
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	13
連結損益計算書	13
連結包括利益計算書	14
(3) 連結株主資本等変動計算書	15
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	17
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	18
(追加情報)	18
(継続企業の前提に関する注記)	18
(セグメント情報)	18
(1株当たり情報)	20
(重要な後発事象)	20
5. その他	21

1. 経営成績等の概況

(1) 経営成績に関する分析

1) 当期の経営成績

当連結会計年度の当社グループにおきましては、前年4月の熊本地震発生による、団体客をはじめとする利用者の旅行手控えも次第に解消し、ゴールデンウィークが好天に恵まれたこともあり、九州の遊園地、ゴルフ場は好調に推移いたしました。北海道につきましては、新規アトラクション導入等の取り組みで遊園地は堅調に推移いたしました。ホテルは宿泊及び宴会部門の利用者数が伸びず、低調に推移いたしました。また、土木・建設資材事業につきましては、バイオマス火力発電所への燃料投入業務の受託開始に加え、客土用土の製造ならびに販売も再開し、売上ならびに収益を底上げすることとなりました。

その他、遊園地事業における催事及び広告宣伝の効率的な実施をはじめ、グループ全体で経費の見直しによる収益力の向上に努めた結果、各利益項目で前期実績を大幅に上回りました。

当連結会計年度の業績につきましては、売上高7,664,115千円(前期比602,874千円増)、営業利益444,937千円(前期比187,532千円増)、経常利益422,357千円(前期比191,759千円増)、親会社株主に帰属する当期純利益は267,889千円(前期比125,494千円増)となりました。

	当連結会計年度 (千円)	前連結会計年度 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	7,664,115	7,061,241	602,874	8.5
営業利益	444,937	257,405	187,532	72.9
経常利益	422,357	230,598	191,759	83.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	267,889	142,395	125,494	88.1

次に、事業の種類別セグメントの概況をご報告申し上げます。

(遊園地事業)

まず、九州の「グリーンランド」におきましては、冬休み期間と1月中の週末毎に夜間営業を実施し、合わせて、ウィンターイルミネーション「光のファンタジー」の開催により、お客様に幻想的な世界をお楽しみいただきました。また春以降につきましても、シーズン毎の大規模イベント開催のほか、話題性の高いスポットイベントを効果的に実施することで、幅広い層のお客様の集客を図りました。

【春催事】	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラゴンボール超(スーパー) 修業チャレンジ! ～悟空を目指して強くなろう!～ ・仮面ライダーエグゼイド バトルステージ ・HANABI フェスティバル ・ピカチュウだらけの大行進
【夏催事】	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョジョの奇妙な遊園地からの脱出 ・仮面ライダーエグゼイド スペシャルショー ・仮面ライダーエグゼイド 出演俳優トークショー ・さのよいファイヤーカーニバル2017
【秋催事】	<ul style="list-style-type: none"> ・きかんしゃトーマスとなかまたち ・チャレンジ☆グリーンランド～2017秋～ ・タマホームスペシャル2017 第14回「花火物語」 ・グリーンランドハロウィン&ハロウィン花火ショー
【冬催事】	<ul style="list-style-type: none"> ・イルミネーション「光のファンタジー」 ・オーロラクリスマスショー ・グリーンランドカウントダウンパーティー2018

「ドラゴンボール超(スーパー) 修業チャレンジ! ～悟空を目指して強くなろう!～」におきましては、世界的な人気を誇るアニメをテーマとしたイベントエリアを展開し、体を使って楽しめる様々な体験ブースは、親子連れのお客様を中心に好評を博しました。

また、日本最大級の屋外ステージ「グリーンスタジアム」では「仮面ライダーエグゼイド バトルステージ」を開催し、炎や火薬の特殊効果に加え、約230インチの巨大LEDスクリーン映像による演出を行い、思わず息をのむ大迫力のショーでお客様を魅了いたしました。更に、絶好のポジションでショーを観覧できる特別観覧席付前売券につきましても、順調に販売数を伸ばし、付加価値向上と収益拡大に繋がりました。

その他、園内で間近に見ることが出来る花火大会をはじめ、13体のピカチュウ達による「ピカチュウだらけの大作」やリアル脱出ゲーム「ジョジョの奇妙な遊園地からの脱出」等、遊園地の広大なロケーションを活かした多様なイベントを開催することで、他施設との差別化を図りました。

加えて、イルミネーションイベント「光のファンタジー」につきましても、年間を通じて規模を拡大させ、花火大会開催時やゴールデンウィーク等の夜間営業時に定期的に開催することで、認知度向上を図るとともに、光の大通り「ルーチェ・ヴィアール」ならびに「光と音の大噴水」の新設や、フルカラーレーザーショー「オーロラクリスマスショー」の特別開催により、顧客満足度のより一層の向上を図りました。

施設面では、人気アトラクション「ウェーブスインガー」に噴水と光の演出を加え、また、占いの館「ルクソールマジック」には新たに友達判断機能を追加するなどのリニューアルを実施したほか、スタッフの手によるきめ細やかな景観整備や季節感のある装飾演出を行うことで、遊園地全体の魅力拡充に努めました。

プール施設「ウォーターパーク」においては、新たに「キッズボルダリング」を設置し、9つのプールゾーン展開による多彩な楽しみ方をPRするとともに入場料金の改定を行い、一層の収益拡大を図りました。

その他、ショップでは、3世代ファミリー向けTシャツやグリーンランドベア（ぬいぐるみ）等のオリジナル商品の開発・販売を行い、飲食店では常に目新しいメニューを提供することで、売上拡大とともに、SNS等による話題性喚起にも注力いたしました。

このように、様々なイベント開催ならびに施設の拡充に加え、企業向け特別入園券の販売等の集客営業強化にも取り組んだ結果、利用者数は、前期比106,385人増加の820,647人、売上高は前期比397,998千円増加の3,233,524千円となり、セグメント利益につきましては、前期比194,860千円増加の520,887千円となりました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春に「ポリショイサーカス」をロングラン公演し、ゴールデンウィークを中心に多様なキャラクターイベントを開催することで、ファミリー層を中心に集客を図りました。また、九州の遊園地内でも人気の高いアトラクション「カード迷路 ぐるり森大冒険」をオープンさせ、多くのリピーターを獲得いたしました。

夏には、「仮面ライダーエグゼイドショー」を開催したほか、清涼感溢れるウォーターアトラクション「アクアロール」を特別営業し、新たな魅力創出に努めました。

また、全国的な知名度を誇る一大コンサートイベント「JOIN ALIVE (ジョインアライブ) 2017」は、一時的に強雨に見舞われましたが、2日間で約3万8千人の観客動員数となり、会場は大いに盛り上がりました。秋には脱出ゲーム「竜の夜からの脱出」を園内で展開し、若者層を中心に好評を博しました。

その他にも、営業期間中において、「いわみざわ彩花まつり花火大会」、「いわみざわ公園花火大会」、ストーリーパフォーマンス等、多彩なイベントを開催し、入園者数は前期実績を上回りました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク (スキー場)』におきましては、1月の冬休み期間中の集客は順調でありましたものの、小雪の影響による営業期間の短縮により期間全体の入園者数は減少いたしました。

この結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は、前期比2,636人増加の232,611人となり、売上高は前期比39,807千円増加の762,224千円、セグメント利益につきましては前期比18,639千円減少の20,576千円となりました。

以上の結果、利用者数は前期比109,021人増加の1,053,258人となり、売上高は前期比437,805千円増加の3,995,748千円、セグメント利益につきましては前期比176,220千円増加の541,464千円となりました。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、プレーヤーの目線に立ったコース整備や施設の拡充による顧客満足度向上を基本に、3ゴルフ場のスケールメリットならびに各ゴルフ場の強みを活かした集客に努めました。

また、熊本地震発生後、一時的に落ち込んだ韓国人ゴルファーの来場者数ならびに会員権販売数につきましては、その後は回復傾向となり、加えて、海外ゴルフ場との相互施設利用提携、ゴルフツアー会社との連携による営業強化、ならびに新たな韓国人スタッフの採用等による万全の受け入れ体制整備により、海外からのゴルファー来場者数は過去最高となりました。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、好評な最新鋭のナビゲーションシステムのPRにより、各種コンペをはじめとする集客の拡大に努めました。

また、フェアウェイならびにガードバンカー拡張工事を実施することで、コース難易度に変化をつけ、幅広い層のお客様にお楽しみいただきました。

施設面では、カート降車場家屋の新設工事をはじめ、レストランの椅子・テーブルの入替え、友の会会員用ロッカーの電子錠設置ならびにコース内トイレの改修工事等を行い、快適なプレー環境の提供に努めました。

その他、北海道や地元ブランドとして話題の商品を多数取り揃えることで売店の充実を図り、コンペ賞品としての利用のほか、お土産品としても大変喜ばれております。

『大牟田ゴルフ場』におきましては、メンバーズゴルフ場の強みであるキャディ付プランの販売促進により収益の拡大を図るとともに、カート道路の補修をはじめ、クラブハウス内トイレの洋式化やスタート室前のテント新設等の施設面の改善により、顧客満足度向上を図りました。

『広川ゴルフ場』におきましては、夏場のフェアウェイカート乗り入れをPRしたキャディ付プランの販売促進のほか、PGAティーチングプロB級資格を保有する当社スタッフによる個別レッスン企画など、特色を活かした集客策を展開いたしました。また、コース内の樹木の剪定や伐採のほか、カート道路の補修等、プレー環境の改善にも積極的に取り組みました。

以上の結果、3ゴルフ場を合わせた利用者数は前期比4,644人増加の138,198人となり、売上高は前期比30,283千円増加の1,026,228千円、セグメント利益につきましては、前期比22,175千円増加の48,918千円となりました。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』におきましては、遊園地とゴルフ場に隣接する利便性の高さを活かし、ファミリー層からインバウンド客まで幅広い宿泊客の利用促進を図る一方、多彩な料理や充実した宴会場設備をPRし、地元を中心としたリピーターの獲得にも注力いたしました。

また、館内分煙化に伴う喫煙ブースの設置や、小さなお子様連れのお客様の為に授乳室の設置を行い、ホテル利用客の利便性ならびに快適性向上にも取り組みました。

『ホテルブランカ』におきましては、リゾートホテルとしての魅力増大を図り、遊園地に面した3つの客室にバルコニーを設置し、また、園内を一望できる屋上フロアにはバーカウンターを設置したことで、花火打ち上げやイルミネーションイベント開催時には、お客様から大変好評となりました。

また、フロントカウンターの移設工事を行い、精算時の動線を確保することで、お客様の利便性向上を図りました。

『ホテルヴェルデ』におきましては、ファミリー層に好評なくまモン等のキャラクタールームに、新たに人気アトラクション「カード迷路 ぐるり森大冒険」とのコラボルームを追加したほか、花火特別観覧席付宿泊プラン等の付加価値の高い宿泊商品の造成に注力いたしました。

また、レストランでは、「フォンターナ」の座席数を増やすとともに、効率的なレイアウトへのリニューアルを実施し、収益性の向上を図りました。

宴会におきましては、遊園地での花火大会実施日に合わせ「プレミアムナイト」と題して、贅沢な食材を使った料理を楽しむイベントを特別開催し、単価アップを図りました。

施設面におきましては、遊園地の大観覧車を望む中庭に噴水とイルミネーションを設置し、宿泊客をはじめとするご利用客の皆様にご幻想的で非日常的な空間を提供いたしました。

この結果、『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』を合わせた宿泊者数は前期比2,817人減少の71,531人となりましたが、売上高は前期比33,672千円増加の1,462,719千円となり、セグメント利益は前期比9,592千円減少の23,313千円となりました。

『ホテルサンプラザ』におきましては、5階の客室リニューアルによる料金改定を行い、売上拡大を図りましたが、第1四半期の宿泊者数の落ち込みが大きく、低調に推移いたしました。

また、お昼のバイキングや「牛スキしゃぶ食べ放題」等の飲食メニューは好評を博しましたが、宴会部門における集客が弱く、売上は減少いたしました。

『北村温泉ホテル』におきましては、ステキーフェアなどの企画商品による集客を図りましたものの、2度にわたる浴室改修工事に伴う休業の影響で、入湯客ならびに団体宿泊客が減少いたしました。

この結果、『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』の宿泊者は前期比3,398人減少の26,333人、売上高は前期比54,476千円減少の638,341千円、セグメント損失は2,971千円（前期は23,606千円のセグメント利益）となりました。

以上の結果、宿泊者数は前期比6,215人減少の97,864人となり、売上高は前期比20,804千円減少の2,101,061千円、セグメント利益は前期比36,170千円減少の20,342千円となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、平成29年3月より新たに、遊園地北駐車場の一角をコンビニエンスストア用地として賃貸を開始しており、堅調に推移いたしました。売上高は前期比4,818千円増加の153,980千円となり、セグメント利益につきましては、前期比19,147千円増加の112,617千円となりました。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、新たにバイオマス火力発電所への燃料投入業務の受託を開始したほか、客土用土の製造ならびに販売も堅調に推移し、売上高は前期比150,770千円増加の387,097千円、セグメント利益は前期比52,381千円増加の79,185千円となりました

(注) セグメント利益は連結財務諸表の営業利益と調整を行っており、上記すべてのセグメント利益合計802,513千円より、各報告セグメントに配賦していない一般管理費を含む357,575千円を差し引いた444,937千円が当連結会計年度の営業利益となります。

2)次期の見通し

当社グループを取り巻く環境は、台風や強雨等、様々な自然災害発生への懸念はありながら、反面、九州内における競合する大型テーマパークの撤退に伴い、新たな顧客獲得の機会も生じているため、スタッフ全員が五感をフル活用し、ますます多様化するお客様のニーズに的確に対応していくことで、更なる集客拡大と収益増大を図り、より一層の企業価値向上を目指してまいります。

各セグメントにおける具体的施策は次のとおりです。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、1月の冬休み期間と週末毎の夜間営業と合わせて、イルミネーションイベント「光のファンタジー」を開催し、新たに登場したスカイリフトの「光のカーペット」や桜並木のイルミネーション「桜のさんぽ道」等、園内100ヶ所以上のイルミネーションスポットを用意し、お客様を魅了いたしました。

春のイベントにつきましては、3月17日(土)から2大イベントを開催いたします。まず一つは、女兒に絶大な人気を誇るキャラクター「プリキュア」の最新作をテーマとした「HUGっと!プリキュア おいでよ!はぐっとマイタウン」を開催いたします。各種オリジナルの展示物をはじめ、カラオケステージやなりきり写真館等、様々な仕掛けで「プリキュア」の世界を体験することが出来るイベントとなっております。その他、イベント限定グッズやコラボメニューの販売も行い、遊園地全体でイベントのスケール感を演出いたします。

また、もう一つは、「仮面ライダービルド バトルステージ」と題し、男児を中心に人気の高い「仮面ライダービルド」を主役とした大迫力のアクションショーを開催いたします。会場となる「グリーンスタジアム」は日本最大級の屋外ステージとなり、約230インチの巨大LEDスクリーンによる映像演出や特殊効果の使用に加え、バイクによるアクションシーンも満載で、他施設では見ることが出来ないオリジナルショーとなっております。その他、春の花火大会として恒例となりました「HANABIフェスティバル」の開催をはじめ、低年齢層向けのキャラクターショーや年々盛り上がりを見せるイースターイベント等、様々なイベントを展開し、春休みからゴールデンウィークを中心に多くの集客を図ります。

また、広大なステージで繰り広げる「仮面ライダービルド バトルステージ」を、絶好のポジションから楽しむことが出来る特別観覧席付前売券の販売を行い、売上の拡大を図ります。

春以降につきましても、これまで培ったネットワークやノウハウを活用し、当園ならではのイベントを実施して、更なる集客を図ってまいります。

アトラクションにおいては、本年もスクラップアンドビルド方式を推進して、「わんぱくボールプール」に代わり、タワー型ライド「グラフィティダブル」を新規導入するほか、既存アトラクションのリニューアルを実施することで、日本一のアトラクション数を誇る当園の強みに加え、新たな魅力の増大を図ってまいります。

次に、イルミネーションイベント「光のファンタジー」につきましては、新たに全長約100メートルの「動くアニメイルミネーション」を設置するとともに、園内各所においてイルミネーションスポットを拡充させ、遊園地全体を使った壮大なスケール感を創出し、お客様に感動を与えてまいります。

更に、「ウォーターパーク(プール)」におきましても、競合施設の閉鎖に伴う需要の拡大が見込まれるため、更なる魅力増大を目指し、新たな遊びの仕掛けの導入や設備の快適性向上に取り組んでまいります。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、この春、北海道で根強いファンを持つ「わんわん大サーカス」を、4月21日(土)から6月3日(日)にかけてロングランの公演を行い、また、集客の山場であるゴールデンウィークには、男児女兒それぞれに人気のキャラクターショーを2本立てで開催し、集客に努めてまいります。

また、昨年新規導入したアトラクション「カード迷路 ぐるり森大冒険」に、新たに20種類のカードを取り入れ、新たな集客と更なるリピーターの獲得を図ります。

その他、アクティビティを展開する企業と連携し、体験学習等の幅を広げ、学校団体ならびに企業団体の獲得を図ります。

『北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）』におきましては、着実な営業活動に努め、学校授業をはじめ、子供会やスポーツクラブ等の各種団体の利用拡大を図ってまいります。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、コース内の樹木の剪定・伐採をはじめ、バンカーの新設やカート道路の改修等、常にプレー環境の整備や変化に努め、その情報をプレーヤーに発信していくことを基本として、継続的な集客を図ってまいります。

また、3ゴルフ場のスケールメリットやオフィシャルホテルの強みを活かし、韓国人ゴルファーの集客拡大ならびに新規会員権販売を推進してまいります。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』では、好評な最新式のナビゲーションシステムの充実した機能をPRしてコンペ客の獲得を図ってまいります。また、特色あるクラブ主催のコンペ実施のほか、熊本県ゴルフ協会主催の公式競技の決勝競技も開催するなど、あらゆる世代や様々な技量を持つプレーヤーに対応できるゴルフ場として、利用者獲得に努めます。

また、『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』の両メンバーシップコースでは、新たにナビゲーションシステムを導入することで、新規のコンペ獲得に注力し、合わせて料金改定を実施し、収益拡大を図ってまいります。

加えて、新規会員を募集することで、メンバーズゴルフ場としての安定的な運営基盤の確立を図ります。

その他、外部予約サイトの効率的な活用に加え、独自のマーケット調査による集客営業を実施し、客単価の増加にも努めてまいります。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』におきましては、遊園地、ゴルフ場をはじめとするグリーンランドリゾートエリア全体の宿泊拠点としての役割に磨きをかけ、レストランや各種宴会におけるサービスや設備の充実を図り、確固たるブランドイメージの定着を目指してまいります。

『ホテルブランカ』におきましては、キャラクタールームのPR強化や客室の改装を推進し、リゾートホテルとしての魅力を増大させるとともに、ウェブサイトを活用した幅広い宿泊プランの販売により、客室稼働率ならびに客単価の増加を図ってまいります。

また、好評な遊園地を望む中庭でのバーベキューや冬の鍋料理など、他施設と差別化した特色を打ち出すことに注力し、団体客や地元客のリピーター獲得に努めてまいります。

『ホテルヴェルデ』におきましては、堅調な韓国からのインバウンド客の受入れに加え、台湾・香港に対しても積極的な営業を展開し、平日を中心とした宿泊稼働率向上を図ってまいります。また、カニバイキングやワイン会等の特色ある料飲イベントを開催して集客を図るとともに、日本料理「小袋」におきましては、コンクール受賞歴のある調理人が腕を振るう和風弁当の販売に取り組み、客単価の増加を図ります。

その他、館内回廊の刷新や中庭をはじめとするイルミネーションの拡充など、顧客満足度を一層高めてまいります。

『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』におきましては、都市圏に近い立地や特色等、それぞれのホテルが持つ強みを活かした宿泊商品販売や料飲イベントの展開により、更なる収益の拡大を目指してまいります。

『ホテルサンプラザ』におきましては、新たに客室の改装を手掛けるなど、リニューアルした客室の充実感をPRすることで競合ホテルとの差別化を図ります。また、好評なレストランのランチメニュー改定により集客力を強化し、夕食は「牛スキしゃぶ食べ放題」に生寿司の食べ放題を追加して魅力を増大させ、宿泊者の更なる利用促進を図ってまいります。

『北村温泉ホテル』におきましては、遊園地を中心とする各レジャー施設との相乗効果を活かして、一般客に加えてスポーツ合宿等の団体獲得を図ります。また、入湯客の期間パスポートの内容を見直して客単価増加に努め、無料送迎バスを強みに宴会団体の獲得を図ります。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、遊園地等のリゾートエリアを中心とした社有地への新規テナント誘致を推進するほか、社有地におけるアパート賃貸事業に取り組み、新たな収益基盤強化を図ります。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、ポゾテック等の建設資材の販売促進に加え、客土用土の製造及び運搬ならびに火力発電所へのバイオマス燃料投入業務受託を着実にとり行い、安定した収益基盤の確立に努めてまいります。

当社グループといたしましては、「ココロを『みどり』でいっぱい。」というキャッチコピーのもと、スタッフ全員が心豊かに元気良く、お客様に感動を与えることを目指して、各事業に取り組んでまいりました。

これからも、当社グループの強みを伸ばし、新たな付加価値を創造することで、お客様から信頼の高い「ブランド力」の確立を図り、その優位性を活かして経営基盤の一層の強化に努めてまいります。

通期の業績予想につきましては、売上高7,900百万円(前連結会計年度比+3.1%)、営業利益460百万円(前連結会計年度比+3.4%)、経常利益430百万円(前連結会計年度比+1.8%)、親会社株主に帰属する当期純利益280百万円(前連結会計年度比+4.5%)を見込んでおります。

(2) 財政状態に関する分析

1) 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、21,797,888千円(前連結会計年度比59,067千円増加)となりました。

流動資産は、760,114千円(前連結会計年度比80,415千円増加)となりました。主な要因は商品及び製品で49,031千円、受取手形及び売掛金で34,456千円増加したことによるものであります。

固定資産は、21,037,774千円(前連結会計年度比21,348千円減少)となりました。主な要因は投資有価証券で35,498千円増加しましたが、建物及び構築物で33,090千円、機械装置及び運搬具で17,342千円、土地で13,517千円減少したことによるものであります。

流動負債は、4,079,795千円(前連結会計年度比86,143千円増加)となりました。主な要因は短期借入金で216,296千円減少したものの、未払法人税等で142,999千円、未払金で103,538千円、1年内償還予定の社債で100,000千円増加したことによるものであります。

固定負債は、6,814,536千円(前連結会計年度比219,837千円減少)となりました。主な要因は社債で100,000千円、長期預り金で90,800千円減少したことによるものであります。

純資産は、10,903,556千円(前連結会計年度比192,761千円増加)となりました。主な要因は利益剰余金で164,515千円、その他有価証券評価差額金で28,245千円増加したことによるものであります。

2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、投資活動によるキャッシュ・フローで397,584千円、財務活動によるキャッシュ・フローで458,531千円それぞれ減少したものの、営業活動によるキャッシュ・フローで857,005千円増加したことにより、前連結会計年度末に比べ888千円増加し、289,102千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、857,005千円増加(前連結会計年度に比べ464,070千円増加)となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益により407,234千円、減価償却費により429,383千円、資金がそれぞれ増加したためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、397,584千円減少(前連結会計年度に比べ10,930千円増加)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出で450,138千円、資金が減少したためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、458,531千円減少(前連結会計年度に比べ526,268千円減少)となりました。

これは主に、長期借入れによる収入により1,382,230千円資金が増加したものの、長期借入金の返済による支出により1,424,405千円、短期借入金の返済により201,500千円、配当金の支払額により103,374千円、資金がそれぞれ減少したためであります。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社では、利益配分につきましては、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付け、安定的な剰余金の配当に配慮するとともに、連結業績ならびに今後の事業展開等を勘案した適正な配当を実施することを基本方針としております。

内部留保金の使途につきましては、経営体質の一層の充実、ならびに将来の事業展開に役立ててまいりたいと存じます。以上の方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株につき6円となる予定であり、中間配当金5円を含めると年間配当金は1株につき11円となる予定であります。

また、次期の配当金につきましては、1株につき中間配当金を5円、期末配当金を5円の年間配当金10円を予定しております。

2. 企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社3社ならびにその他の関係会社1社で構成されており、遊園地・ゴルフ・ホテルのレジャー事業を主な内容とし、不動産事業については、不動産の売買・賃貸を行い、土木・建設資材事業として土木工事受注のほか、建設資材の製造・販売・運搬等を行い、また、その他事業として都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けならびに事業の種類別セグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、事業区分は事業の種類別セグメントと同一であります。

また、西部瓦斯株式会社につきましては、間接所有を含め当社の発行済株式数の24.25%を所有しており、当社は同社の持分法適用の関連会社であります。

<遊園地事業>

グリーンランド（九州）	当社が当遊園地を経営しており、有明リゾートシティ株式会社が園内飲食店の内3店舗、園内売店の内5店舗を、当社より受託して運営しております。 また、グリーンランド開発株式会社が園内飲食店の内5店舗、園内売店の内2店舗、園内施設のうち2施設の運営及び園内清掃をはじめとする園内管理業務を当社より受託しております。
北海道グリーンランド遊園地(北海道)	空知リゾートシティ株式会社が当遊園地を経営しております。
北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が当スキー場を経営しております。
いわみざわ公園（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、いわみざわ公園の運営管理業務を行っております。

<ゴルフ事業>

グリーンランドリゾートゴルフコース	当社が当ゴルフ場を経営しております。
有明カントリークラブ大牟田ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。
久留米カントリークラブ広川ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。

<ホテル事業>

グリーンランドリゾートオフィシャルホテルブランカ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
グリーンランドリゾートオフィシャルホテルヴェルデ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
北海道グリーンランドホテルサンブラザ及び北村温泉ホテル	空知リゾートシティ株式会社がホテルサンブラザを経営しております。また同社は、岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、北村温泉ホテルの運営管理業務を行っております。
生損保保険代理店業等	有明リゾートシティ株式会社が生損保保険代理店業務等の営業業務を行っております。

<不動産事業>

不動産	当社が不動産の売買・賃貸を行っております。
-----	-----------------------

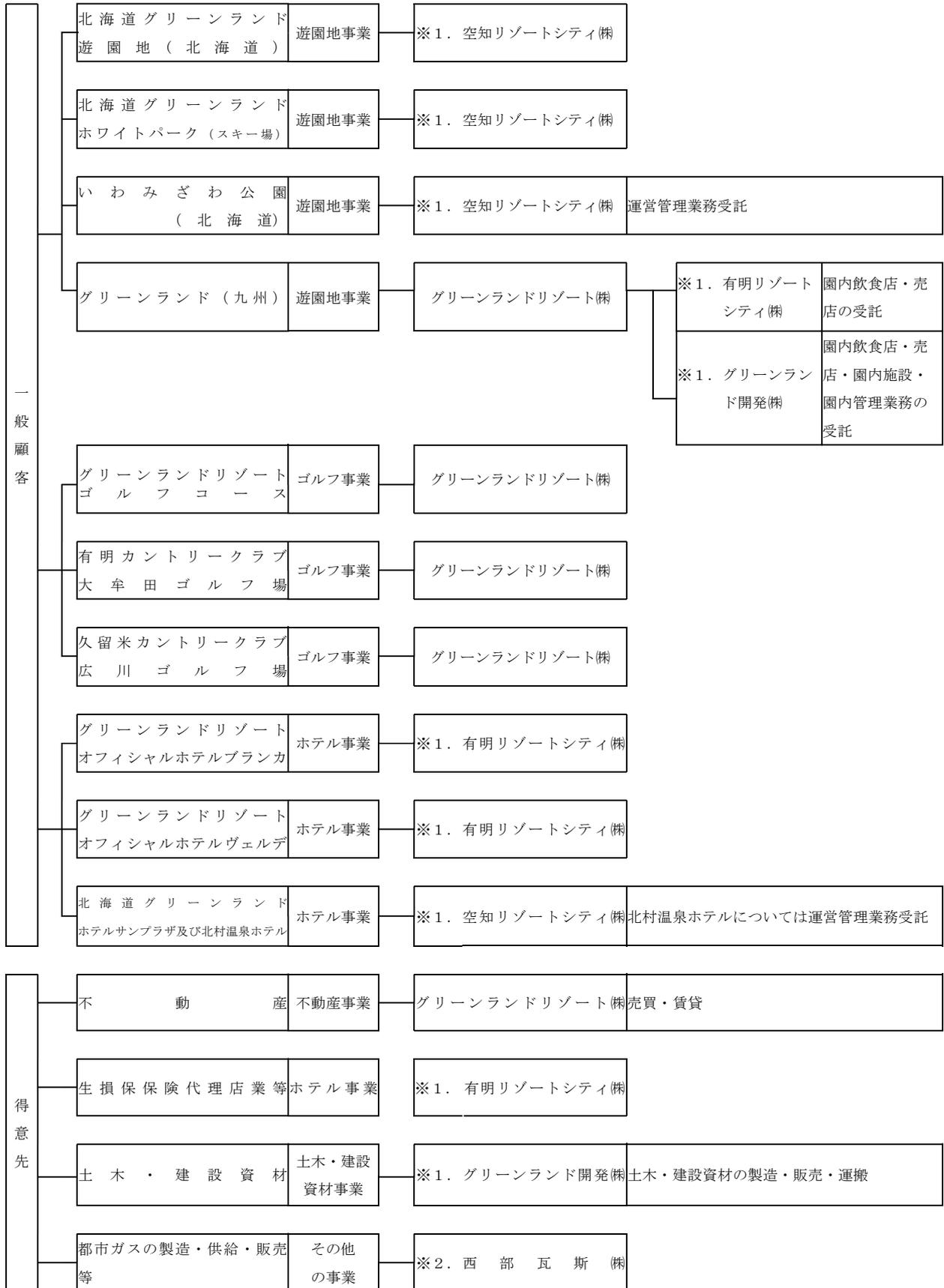
<土木・建設資材事業>

建設資材の製造・販売・運搬事業	グリーンランド開発株式会社が土木工事受注のほか、建設資材を製造・販売・運搬しております。
-----------------	--

<その他の事業>

都市ガスの製造・供給・販売等	西部瓦斯株式会社が都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。
----------------	----------------------------------

上記の当社グループの状況について事業系統図を示すと次のとおりであります。



(注) ※1. 連結子会社

※2. その他の関係会社

3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的な事業展開や資金調達を行っておりませんので、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

4. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	288,214	289,102
受取手形及び売掛金	202,507	236,963
商品及び製品	37,590	86,621
原材料及び貯蔵品	57,403	51,899
販売用不動産	7,130	7,130
繰延税金資産	15,364	23,504
その他	75,272	68,544
貸倒引当金	△3,782	△3,653
流動資産合計	679,699	760,114
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,565,555	13,751,650
減価償却累計額	△9,456,944	△9,676,130
建物及び構築物 (純額)	4,108,610	4,075,520
機械装置及び運搬具	3,523,646	3,632,589
減価償却累計額	△2,902,412	△3,028,697
機械装置及び運搬具 (純額)	621,234	603,892
土地	15,062,040	15,048,522
リース資産	120,099	120,099
減価償却累計額	△50,444	△66,672
リース資産 (純額)	69,655	53,427
建設仮勘定	6,600	-
その他	1,104,079	1,168,433
減価償却累計額	△974,261	△1,012,365
その他 (純額)	129,817	156,067
有形固定資産合計	19,997,958	19,937,430
無形固定資産		
その他	234,105	237,157
無形固定資産合計	234,105	237,157
投資その他の資産		
投資有価証券	337,788	373,287
繰延税金資産	303,979	302,580
退職給付に係る資産	121,403	121,878
その他	64,986	66,540
貸倒引当金	△1,100	△1,100
投資その他の資産合計	827,058	863,186
固定資産合計	21,059,122	21,037,774
資産合計	21,738,821	21,797,888

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	98,628	87,215
営業未払金	120,698	101,297
1年内償還予定の社債	—	100,000
短期借入金	3,356,932	3,140,636
リース債務	21,257	11,572
未払金	255,643	359,182
未払法人税等	4,835	147,835
その他	135,657	132,055
流動負債合計	3,993,651	4,079,795
固定負債		
社債	100,000	—
長期借入金	3,809,989	3,782,610
長期預り金	2,909,042	2,818,242
リース債務	21,735	10,736
繰延税金負債	54,910	68,565
退職給付に係る負債	8,938	6,236
その他	129,758	128,145
固定負債合計	7,034,374	6,814,536
負債合計	11,028,025	10,894,332
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,689,214	1,853,729
自己株式	△3,033	△3,033
株主資本合計	10,634,116	10,798,631
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	76,679	104,925
その他の包括利益累計額合計	76,679	104,925
純資産合計	10,710,795	10,903,556
負債純資産合計	21,738,821	21,797,888

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
売上高	7,061,241	7,664,115
売上原価	6,217,816	6,573,415
売上総利益	843,425	1,090,700
販売費及び一般管理費	586,019	645,762
営業利益	257,405	444,937
営業外収益		
受取利息	18	1
受取配当金	6,345	7,644
受取賃貸料	4,154	4,630
受取保険金	10,670	6,822
雑収入	8,966	9,515
営業外収益合計	30,155	28,615
営業外費用		
支払利息	54,796	48,651
雑損失	2,165	2,543
営業外費用合計	56,962	51,195
経常利益	230,598	422,357
特別利益		
固定資産売却益	7,840	25
受取保険金	7,538	9,727
補助金収入	—	58,726
その他	—	2,610
特別利益合計	15,378	71,089
特別損失		
固定資産除売却損	4,366	7,973
固定資産圧縮損	7,010	68,300
投資有価証券売却損	125	—
減損損失	3,725	3,208
その他	—	6,729
特別損失合計	15,227	86,212
税金等調整前当期純利益	230,749	407,234
法人税、住民税及び事業税	79,111	144,683
法人税等調整額	9,242	△5,338
法人税等合計	88,354	139,344
当期純利益	142,395	267,889
親会社株主に帰属する当期純利益	142,395	267,889

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
当期純利益	142,395	267,889
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11,529	28,245
その他の包括利益合計	△11,529	28,245
包括利益	130,866	296,135
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	130,866	296,135
非支配株主に係る包括利益	-	-

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自平成28年1月1日 至平成28年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	1,660,530	△3,033	10,605,432
当期変動額					
剰余金の配当			△113,711		△113,711
親会社株主に帰属する当期純利益			142,395		142,395
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	28,683	—	28,683
当期末残高	4,180,101	4,767,834	1,689,214	△3,033	10,634,116

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	88,208	88,208	10,693,641
当期変動額			
剰余金の配当			△113,711
親会社株主に帰属する当期純利益			142,395
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△11,529	△11,529	△11,529
当期変動額合計	△11,529	△11,529	17,154
当期末残高	76,679	76,679	10,710,795

当連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

(単位: 千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	1,689,214	△3,033	10,634,116
当期変動額					
剰余金の配当			△103,374		△103,374
親会社株主に帰属する当期純利益			267,889		267,889
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	—	—	164,515	—	164,515
当期末残高	4,180,101	4,767,834	1,853,729	△3,033	10,798,631

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	76,679	76,679	10,710,795
当期変動額			
剰余金の配当			△103,374
親会社株主に帰属する当期純利益			267,889
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	28,245	28,245	28,245
当期変動額合計	28,245	28,245	192,761
当期末残高	104,925	104,925	10,903,556

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	230,749	407,234
減価償却費	427,906	429,383
減損損失	3,725	3,208
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△19,800	△475
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,395	△2,702
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	78	△129
受取利息及び受取配当金	△6,364	△7,646
支払利息	55,431	49,285
受取保険金	△18,208	△9,727
補助金収入	-	△58,726
固定資産売却損益 (△は益)	△7,840	△25
固定資産除売却損益 (△は益)	4,366	7,973
固定資産圧縮損	-	68,300
売上債権の増減額 (△は増加)	△17,215	△30,205
たな卸資産の増減額 (△は増加)	5,198	△30,794
仕入債務の増減額 (△は減少)	21,139	△30,812
未払金の増減額 (△は減少)	△33,382	65,724
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△10,671	17,118
その他	2,373	51,222
小計	638,883	928,206
利息及び配当金の受取額	6,364	7,646
利息の支払額	△54,068	△48,830
保険金の受取額	10,670	9,727
法人税等の支払額	△218,588	△39,744
営業活動によるキャッシュ・フロー	383,260	857,005
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△439,315	△450,138
有形固定資産の売却による収入	7,896	185
無形固定資産の取得による支出	△14,063	△9,280
投資有価証券の取得による支出	△1,138	-
投資有価証券の売却による収入	1,250	-
補助金の受取額	-	58,726
その他	△10	2,922
投資活動によるキャッシュ・フロー	△445,380	△397,584
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△226,000	△201,500
長期借入れによる収入	2,198,000	1,382,230
長期借入金の返済による支出	△1,672,717	△1,424,405
長期預り金の返還による支出	△98,400	△90,800
リース債務の返済による支出	△19,640	△20,682
配当金の支払額	△113,506	△103,374
財務活動によるキャッシュ・フロー	67,736	△458,531
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	5,616	888
現金及び現金同等物の期首残高	282,597	288,214
現金及び現金同等物の期末残高	288,214	289,102

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の摘要)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、遊園地やホテル等の経営及び運営等を主な事業としていることから、サービス別に報告セグメントを、「遊園地事業」、「ゴルフ事業」、「ホテル事業」、「不動産事業」、「土木・建設資材事業」として識別しております。

遊園地事業	: 遊園地・スキー場等の経営、運営
ゴルフ事業	: ゴルフ場の経営、運営
ホテル事業	: ホテルの経営、運営
不動産事業	: 不動産の賃貸、売買
土木・建設資材事業	: 建設資材の製造、販売、運搬

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1、2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・ 建設資材 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,557,942	995,944	2,121,865	149,161	236,326	7,061,241	-	7,061,241
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,371	10,867	25,710	11,351	8,882	61,183	△61,183	-
計	3,562,314	1,006,812	2,147,576	160,512	245,209	7,122,424	△61,183	7,061,241
セグメント利益	365,243	26,743	56,512	93,469	26,804	568,773	△311,368	257,405

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△312,767千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1、2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・ 建設資材 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,995,748	1,026,228	2,101,061	153,980	387,097	7,664,115	-	7,664,115
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,286	11,046	24,482	29,154	12,672	81,642	△81,642	-
計	4,000,035	1,037,274	2,125,543	183,135	399,769	7,745,758	△81,642	7,664,115
セグメント利益	541,449	48,918	20,342	112,617	79,185	802,513	△357,575	444,937

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△358,653千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
1株当たり純資産額	1,036.12円	1,054.76円
1株当たり当期純利益金額	13.77円	25.91円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	142,395	267,889
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	142,395	267,889
期中平均株式数(千株)	10,337	10,337

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

5. その他

役員の変動

1. 代表者の変動

該当事項はありません。

2. その他の役員の変動

(1) 新任取締役候補

取締役 道永 幸典 (現 西部瓦斯株式会社 取締役 常務執行役員)

※道永幸典氏は、社外取締役候補であります。

(2) 退任予定取締役

取締役 有村 文章 (現 当社社外取締役、西部ガス情報システム株式会社 代表取締役社長)

3. 就退任予定日

平成30年3月29日

(ご参考)

新任取締役候補の略歴

道 永 幸 典 (ミチナガ ユキノリ) 昭和32年11月1日生 60歳

昭和56年	4月	西部瓦斯株式会社入社
平成24年	3月	同社理事情報通信部長
平成25年	4月	同社理事情報通信部長兼情報化推進室長
平成26年	4月	同社執行役員情報通信部長
平成27年	4月	同社常務執行役員総務広報部長
平成28年	4月	同社常務執行役員
平成28年	6月	同社取締役常務執行役員 (現任)